

関川（光星）7位準決勝へ

ボルダー・ジャパン杯

スポーツクライミングのボルダー・ジャパンカップは1日、東京都世田谷区で開幕して男女予選

が行われ、女子の関川愛音（八学光星高）は100点を獲得して7位となり、上位20人による準決勝に進出した。1位通過は女子が松藤藍夢（日

大）、男子が山口賢人（大阪府連盟）だった。今回からポイント制を導入。完登で25点、ゾーン（中間点）のみ到達した場合は10点が入り、五

つの課題が用意された予選は125点満点。ゴールかゾーン到達までの失敗数に0・1を乗じたポイントを差し引く。関川は第1〜3課題ま

でミスなく完登。第4課題はゾーン手前で手こずり加点できなかったが、最終課題を一発でクリアして予選通過を決めた。2日は男女の準決勝と決勝を実施。決勝には準決勝の各8位までが進む。（桑田友人）

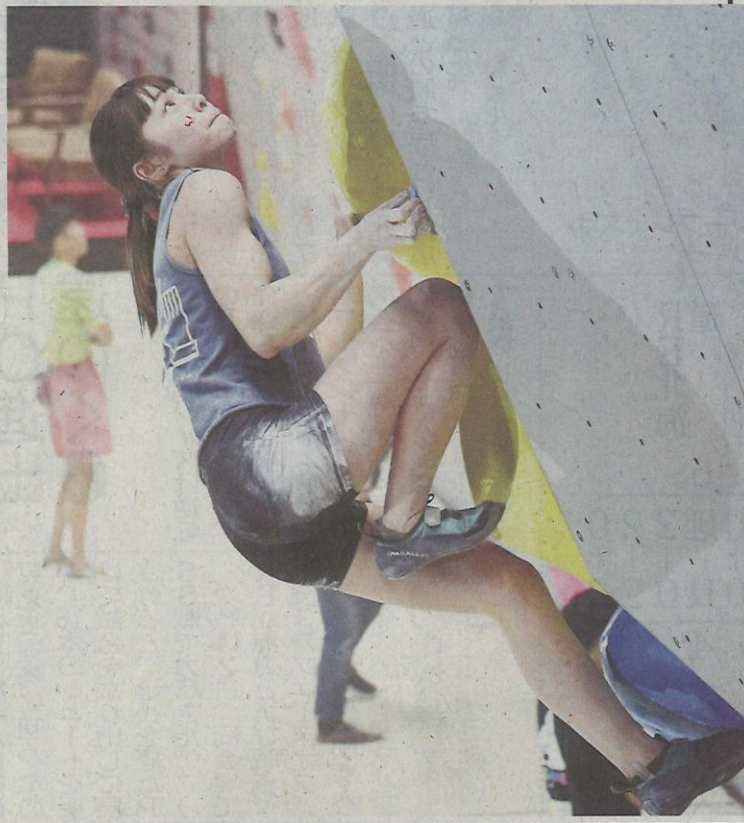
○：関川愛音（八学光星高）は5分の4の課題を一撃で成功し、予選を7位で突破。「集中できていたし、第4課題でつまづいた後も切り替えられた」と上々の滑り出しにうなずいた。

5位に終わった昨年10月に中国であったアジア選手権後から「他の選手の登りを研究し、強く攻めて登ることをテーマにした」。体幹が鍛えられ、登りに力強さが増した。

一方、加点できなかった第4課題は「ホールド（壁の突起）を全然持てなかった」。有力選手は全課題でゾーン（中間点）に到達。一つでもポイントに終われば、準決勝や決勝では命取りになりかねない。

だが、頂点を狙うクライマーは「（手の）保持力はすぐ強くなるわけではないけれど、こういう課題もポジティブに取り組みたい」と下を向くそぶりを見せなかった。

好発進「集中できていた」



【女子予選】第5課題、関川愛音（八学光星高）がゴールを目指す
〓 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場